

島根大学たたらシンポジウムが開催されました

3月5日（土）文部科学省の特別教育研究経費、大学のプロジェクト推進機構の特定研究によって支援を受けた「たたら製鉄におけるナノテクノロジーの結晶学的解明」の3年間のプロジェクトの報告会もかねて、島根大学たたらシンポジウムが開催されました。たたら製鉄でできる玉鋼（たまはがね）を使わないとよい日本刀はできないといわれており、日本刀の周辺にある科学的な立場からのシンポジウムでした。日本刀のナノレベルの観察や、作り方などに潜む科学的な根拠、日本刀の折り返し鍛錬と原理を一にする最新の科学技術が、これまでの常識を超えた金属材料を生んでいるなどの発表が行われました。日本刀の作刀技術は科学的な根拠があるからこそ現代に伝わり、経験的にそれらを利用して日本の技術はすばらしいものがあります。また、未だ解明できていないところもあり、それらの科学的な根拠を明らかにすることにより、現代の科学に応用できる可能性があると思います。参加者は全国から94名、北海道、東京など島根県外からの参加者が1/3を越え、松江市および近隣の市町村から1/3、学内からの参加者は約1/3、参加者の中から、これまでの日本刀の講演会の中で最も科学的で興味深いものだったというコメントもいただき、盛況のうちに終えることができました。会場には金属組織の観察ができるよう光学顕微鏡が置かれ、また、JFE21世紀財団によって寄贈され、無料で配布された、たたらDVDも置かれていた。

